

東海村防災会議 会議録

| | |
|-------------|--|
| 1 開催日時 | 令和8年3月19日(木)午前10時00分から午前10時50分まで |
| 2 場所 | 東海村役場 5階 原子力視察研修室 |
| 3 出席者 | 萩谷 浩康, 堀米 正和 (代理), 中野 重友, 山元 薫 (代理), 金本 真也, 寺田 明弘, 森 航 (代理), 大島 一馬, 磯崎 淳一 (代理), 富田 浩文, 池田 洋平, 河西 徹雄, 伴 敦夫, 門馬 仁志, 里山 朝紀, 青木 勲 (代理), 五十嵐 祐介, 西條 昌利 (代理), 大崎 篤 (代理), 植木 伸寿 (敬称略) |
| 4 欠席者 | 山田 修, 白石 幸洋, (敬称略) |
| 5 公開又は非公開の別 | 公開 |
| 6 非公開の理由 | — |
| 7 議題 | (1) 東海村地域防災計画の修正について (2) その他 |
| 8 配布資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・東海村地域防災計画の修正について ・東海村地域防災計画【各計画編】 新旧対照表 ・基幹避難所運営方針 (案) ・東海村における備蓄目標の設定及び公表について |
| 9 発言内容 | <p>(主な意見と回答)</p> <p>(1) 東海村地域防災計画の修正について</p> <p>①防災DXの目指すところは。 ⇒ 新総合防災情報システム(SOBO-WEB)や新物資システム(B-PLo)の利活用促進, 研修・訓練の実施, 防災IoTシステムによる被災状況の迅速な共有, 避難所開設時における全国共通避難所・避難場所IDの報告による支援の迅速化など。</p> <p>②トイレ, キッチンカー, トレーラハウスの運用に向けての考え方は。 ⇒ 令和7年6月1日から災害対応車両(キッチンカー・トレーラハウス等)の登録制度が始まった。発災直後から温かい食事や快適な居住・衛生環境等を提供でき, 令和6年能登半島地震でも活躍した。平時から登録・データベース化しておくことで, 発災後, 被災自治体のニーズに応じて迅速に災害対応車両を提供につながると考える。</p> <p>③ボランティア人材確保に向けた道筋は。 ⇒ 内閣府では, 避難所運営のノウハウを有する地域のボランティア人材の育成を図ることとしており, 令和4年度から「避難生活支援リーダー/サポーター研修」をモデル研修として内閣府主催で全国の市区町村で実施している。</p> <p>④復興まちづくり計画の前提, 区画整理等との関連は。 ⇒ 前提として策定している計画や区画整理等と関連付けているものはないと認識している。</p> |

| | | |
|----|-----|--|
| | | <p>⑤茨城県地域防災計画の修正予定時点に誤記がある。 ⇒ 資料を修正する。</p> <p>(2) その他 特記事項なし</p> |
| 10 | 結 果 | <p>・案のとおり、「東海村地域防災計画」を決定する。</p> |